■藤原仲麻呂(恵美押勝)　　人臣として正一位太政大臣という極位極官まで昇りつめながら，一転して逆賊とされ，斬首の最期。
ふじわらのなかまろ

・・・・・・ 706＝　**_当時，従二位大納言藤原不比等の長男で，大学頭に昇進したばかりの武智麻呂の次男に生まれる。母は，祖父不比等が一族の発展を図るべく嫁に迎えた名族阿倍氏の娘。同母兄に，2つ年上の豊成がいる。**
平城京遷都・ 710＝ 4歳：左京の，大宮の南に生家の邸宅があり，父が藤原南家の始祖と呼ばれることになる。
古事記完成・ 712＝ 6歳：祖父不比等が「古事記」を撰進。父武智麻呂は近江守になり，以後4年，善政を施し，南家の領国化。
_大学頭の父によって，2人の明経博士を家庭教師に，兄豊成とともに学び，
元正天皇即位 715＝ **9歳：**元明天皇が譲位し元正天皇が即位。
養老律令・・ 718＝12歳：阿倍内親王誕生。養老律令の編纂など，**_天武皇親と対抗して，大事業を主導してきた祖父不比等が，**
藤原不比等没 720＝14歳：父が中納言になる。**_「日本書紀」撰進を最後に死去，後の活動の背景になるとともに，この頃までに，多くの書物を読み，とりわけ算術に秀でて，当代一流の漢学者淡海三船からも，生まれつき賢いと言われる。**
長屋王右大臣 721＝15歳：元明上皇が死去。皇親長屋王が実権を握るようになる。
聖武天皇即位 724**＝18歳：**元正天皇が譲位し聖武天皇が即位。天皇を護る新設の中衛府は，以後，藤原氏の私的武力になっていく。
行基山崎橋・ 726＝20歳：この頃，近侍する天皇の信頼を得れば，出世著しいとされる**_内舎人に選抜されて官職が始まり，**
長屋王の変・ 729＝23歳：父や父の弟房前の策謀で，長屋王が葬られ，祖父不比等の娘光明子の立后に成功，父は大納言に。
・・・・・・ 730＝24歳：この頃，**_大学少允に転任，エリートコースに乗って，**
・・・・・・ 731＝25歳：この年には，不比等の四人の子が皆参議以上になり，藤原四子体制が確立。**_大学で算術を必須にするも，**
風土記完了・ 733**＝27歳：**
・・・・・・ 734＝28歳：父が従二位右大臣。**_兄から遅れること10年，ようやく，正六位下より従五位下に昇叙し，貴族に列する。**
真備玄昉帰国 735＝29歳：吉備真備と玄昉が帰国。新羅との緊張が高まって，強硬な政策がとられ続けるなか，
・・・・・・ 736＝30歳：敏達天皇の子難波皇子四世孫で**_不比等後妻橘三千代の子葛城王が臣籍降下して橘諸兄と改称し，**
藤原四卿没・ 737＝31歳：***阿倍内親王が立太子した直後，天然痘流行で，父を皮切りに，藤原四子が死去，議政官でも残ったのは，鈴鹿王，橘諸兄，大伴道足だけになり，橘諸兄を右大臣に，聖武天皇の意向が前面に出るようになる。**
橘諸兄右大臣 738＝32歳：兄が藤原氏の氏上となり従四位下参議兼兵部卿と，藤原氏唯一の議政官になって，その差は広がり，藤原式家宇合の嫡男広嗣も周囲から期待され，三階昇進して従五位下になるが，唐帰りの吉備真備・玄昉ばかりが重用され，反藤原勢力の台頭で，対新羅強硬政策を放棄，些細な理由で大宰府に左遷されてしまう。
・・・・・・ 739＝33歳：従五位上に叙され，以降，**_人材不足のなか，学識と秀才ぶりが評価されるだけでなく，**
藤原広嗣の乱 740＝34歳：正五位下。広嗣がついに決起，壬申の乱以来の内乱になるも，朝廷の派遣軍の前に敗走し斬刑になったが，平城京内にも広嗣支持者が多数いることも判明，**_天皇親衛隊の長官に抜擢され，兄豊成が平城京留守居になったのと対照的に，都を捨てた聖武天皇の彷徨に従い護衛，この年のうちに，橘諸兄の発議による恭仁京遷都に至る。その功で，王族を除けば二番目の正五位上となり，以降，内侍司女官になった妻袁比良(房前の娘)を介して，議政官進出をめざして光明皇后への働きかけ，異例の昇進をして行く。**
国分寺建立詔 741＝35歳：唯一人叙位されて従四位下となり，兄豊成と二階差に迫るとともに，南家の優位も確立。摂津・河内の淀川堤防紛争を検校して認められ，民部卿，恭仁京の宅地班給使，左右京の設定などするうち，
墾田永世法・ 742**＝36歳：**この頃には，皇后からの抜擢の場を活かし，その実力で，兄豊成を超える評価を得るようになり，
大仏造立の詔 743＝37歳：**_新たな離宮紫香楽宮を造営し，大仏造立をめざす聖武天皇を支え，これに反対の左大臣橘諸兄と立場が逆転，従四位上に叙され，兄より4年も早いスピードで参議になり，ついに，自己の理想を実現できる議政官の一員になるや，早速，大仏造立の財源確保の起死回生策墾田永年私財法を立案し実現。**
・・・・・・ 744＝38歳：聖武天皇は，恭仁か難波かいずれを都にするか，多くの官人から意見聴取，恭仁京支持者が多かったにもかかわらず，難波行幸を強行，これに，巻き返しを図ろうとする橘諸兄が便乗する間，安積親王が急逝し，聖武天皇直系男子が断絶。なお，天皇が逡巡する間，元正上皇の勅を受ける形で，橘諸兄が難波遷都を宣言してしまい，対立が極まる一方，紫香楽宮では放火が頻発，
行基初大僧正 745＝39歳：正四位上。地震も続いて民心動揺，諮問の結果，**_5年ぶりに平城京還都。政権トップの鈴鹿王が死去し，反藤原氏の勢力が衰退，難波宮に行幸中，天皇が重病になって皇位継承問題が起こるや，橘諸兄の子で，藤原氏出の皇嗣阿倍内親王の正統性を認めない奈良麻呂の反乱計画が始まる(後に判明)。曾祖父鎌足以来の由緒の地近江守となり，以後，失脚するまで手放さず。**
・・・・・・ 746＝40歳：元正上皇の掃雪に供奉し作歌。前年に左遷された玄昉が死去。**_鈴鹿王の式部卿を継承し人事権も掌握，東山道鎮撫使を兼務し従三位，側近の石川年足はじめ自派で組織固めし，皇太子護衛の授刀舎人を編成。**
大仏鋳造始・ 747＝41歳：前年に，平城京還都で再開された大仏造立の塑像完成供養に至るも，聖武天皇の健康が再び不安定，
・・・・・・ 748＝42歳：元正上皇が死去して，橘諸兄の力が失われる。父の極位を超えて**_正三位になるも，太政官のトップの兄は従二位大納言と差は相変わらず，参議拡大にあたって，自らの側近を加えて，体制を強化，**
孝謙天皇・・ 749＝43歳：行基が死去。元正上皇の死去で，ようやく譲位可能なった聖武天皇は，陸奥からの産金報告で大仏完成の目途が立つと，天平感宝(初の四字年号)に改元し，皇太子の祖母橘三千代に叙位，諸兄には，生存中初の正一位を授与，豊成を右大臣に昇進させると，出家して大仏造立に専念，政務を光明皇后が代行するうち，正式に孝謙天皇が即位し，天平勝宝に改元。皇后の意志で，嫡系を理由に，正当化された女帝**_孝謙天皇が即位するや，大納言に抜擢され，天皇と皇太后の命令を伝達する役所として設置された紫微中台の紫微令(長官)，中衛大将を兼任，自らの9人の男子の活躍も始まり，以後，何事も一人で決めるようになる。**
・・・・・・ 750＝44歳：従二位。自邸田村第で遣唐大使藤原清河饒別の宴会。天皇の代理で東大寺に赴き，造東大寺官人に叙位。
懐風藻・・・ 751**＝45歳：**表舞台から消えていた吉備真備が，位階が大使より高く，かつ2人目という異例の遣唐副使に任命される。
大仏開眼・・ 752＝46歳：国家の威信を示す国際的で盛大な開眼供養会後，天皇は，田村第に行幸し，光明皇后とともに長期滞在。
・・・・・・ 753＝47歳：豪胆な遣唐副使大伴古麻呂は，新羅と席次を争い，出国の禁を破って，鑑真を日本へ密航させる。諸兄，豊成に次ぐ政権第三位の大納言従二位の巨勢奈弓麻呂が死去すると，**_繰り上がって政権第三位に。**
鑑真来日・・ 754＝48歳：聖武生母藤原宮子が死去。**_遣使して鑑真一行を河内で迎え，東大寺で対面。鑑真来日に従って帰国した子刷雄を介して僧侶とも関係深く，5年前に大仏鋳造で造東大寺司を設置以来，自邸で，大規模な写経事業を行い始め，為政者としてもさまざまな仏教政策の一方，かねて志向してきた唐風化政策も本格化。**
聖武天皇没・ 756＝50歳：橘諸兄が辞任。聖武上皇が死去し遺品を東大寺に献納(正倉院)。戒律を重視する僧を任命し統制強化，
橘奈良麻呂乱 757＝51歳：橘諸兄が死去するや，皇太子になったばかりの***道祖王を廃太子して自らに近い大炊王を立太子，紫微内相になって軍事大権も分与され，祖父不比等が編纂したままの養老律令を施行し，大学寮の暦と算を統一。諸兄の子橘奈良麻呂がついに決起も，密告者多数，拷問によって決行日まで分かり鎮圧，貢献者を露骨に優遇，連座者には苛酷な処罰，兄豊成にも嫌疑をかけて左遷に成功して，ついに議政官首座につき，なお光明皇太后の思惑も背景としながらも，自らの政権を確立するに至る。たくみな演出で，天平宝字に改元し，**
孝謙天皇譲位 758＝52歳：**_大炊王が淳仁天皇として即位するが，譲位させられた孝謙の母光明への反発も始まる。それまでの勲功に報いるということで，大保(右大臣の唐名)に任じられるとともに，皇室に準じる尊号恵美押勝の名が与えられ，私鋳銭や私出挙など特別の恩典も。官号を改制し，東北経営のため，雄勝城・桃生城を造営。**
万葉集最終歌 759＝53歳：**_淳仁の父舎人親王への尊号問題で，天皇・上皇の対立が表面化し，護衛兵の衛も分割。遣唐使席次問題以来，渤海と連携して進めてきた新羅征討計画を本格化。**
光明皇后没・ 760**＝54歳：**従一位，**_不比等も生前辞退した大師(太政大臣)になり，延慶と「藤氏家伝」編纂，不比等に「淡海公」の称号を追贈して，近江国領国を正当化するに至るも，光明皇太后が死去して打撃，以後，過剰な自己防衛策，**
・・・・・・ 761＝55歳：供物を得ようとする貪欲な僧を排除する政策，前年来**_近江に造営してきた保良宮を北京として遷都。**
新羅征討計画 762＝56歳：**_正一位の極位に達し，前年の遣唐使によって伝えられた新型鎧ほか武器の大量製造を命じるに至るも，孝謙上皇と淳仁天皇が決定的に不和となり，頼みの石川年足も死去**
押勝暗殺計画 763＝57歳：儀鳳暦を廃止して大衍暦に改めるなど，陰陽師を重用，のちに，母阿倍氏の傍流の末裔安倍晴明が活躍することになる。この前後，淡海三船が神武以降の聖武までの歴代天皇の漢風諡号を定めているのは，自らの正統性を守ろうとする孝謙の意向であった可能性が高い。**_藤原良継事件が起こり，飢饉となるなか，**
恵美押勝の乱 764＝54歳・**_孝謙上皇側に淳仁天皇側にあった鈴印(天皇の命を文書にして伝える権威の象徴)を奪取されたことで，乱を起こさざるを得なくなり，敗死，氏姓官位すべて剥奪された。孝謙上皇の乱ともいえる最期であった。**
仲麻呂が課題としていたのはポスト壬申の乱体制の構築であり，譜第の嫡子を重視すること，白壁王がたくみに保身していたこと，橘奈良麻呂の乱後，天武皇親の枯渇を招いたことなどで，宇佐八幡宮の神託後の天智天皇系への転換を準備したといえよう。

仁藤敦史「藤原仲麻呂～古代王権を動かした異能の政治家」，